

■ 専門科目

アート・クリエイション

比較芸術論

2021年度開講・選択・2単位

Comparative Study on Arts and Design

担当教員 藤田治彦・藤山哲朗・橋本英治・尹 智博

到達目標（目的含む）

芸術の本質を見出す試みとして、複数領域の芸術の特徴を比較検証することが行われていた。古代の建築書の中には音楽理論が記され、中世では「絵画と文学」、近代では「絵画と音楽」や「色彩と音響」等、各領域の特徴を比較検証した領域横断研究や作品制作が行われていた。そして近年では他領域の芸術の特徴を「新しい制作手法」として転用したアートやデザインの作品が多く制作される様になった。本科目では、そうした複数領域の芸術を横断し比較された歴史や概念、様々な作品群の事例、制作手法等について講義を行う。アートやデザインを単一の専門領域だけでなく、複数領域より読み解き考察する力を身につける。

授業の概要

- 1：「絵画と彫刻」絵画と彫刻とデッサン（藤田）
- 2：「彫刻と建築」彫刻的建築と建築的彫刻（藤田）
- 3：「建築と絵画」ミュージアム建築と現代芸術（藤田）
- 4：「アートとデザイン」芸術と技術とデザイン（藤田）
- 5：「身体と空間」ファッションとアートと建築（藤山）
- 6：「空間のデコンストラクション」ダンスと建築（藤山）
- 7：「アンビルトアーキテクチャー」建築とマンガ（藤山）
- 8：「テクノロジーとデザイン」飛行機と庭と映画（藤山）
- 9：「映像とまんが」映像のフレーミングとまんがのこま割り（橋本）
- 10：「映像と絵画」画中画（mise en abyme）あるいは、映像の中の絵画（橋本）
- 11：「映画と身体」写真と映画、静止した身体と動く身体（橋本）
- 12：「映像と文学」脚本と映像 演出の問題（橋本）
- 13：「楽音と雑音」音と数字（尹）
- 14：「音楽と造形」音楽とデザインとアート（尹）
- 15：「表記法」投影法と記譜法とコード（尹）

授業時間外学習

各回の復習を行うこと

評価方法

受講態度、成果物等を総合的に判断する

使用テキスト

適宜、配布する。

芸術共創論

後期・選択・2単位

Co-creation for Arts

担当教員 谷口文保・曾和具之・山本忠宏

到達目標（目的含む）

共創の芸術的価値について俯瞰的に考え、その可能性を理解する。受講生各自が自身の研究を俯瞰的に再考し、その意義を明確化する。

授業の概要

本授業では、未来を拓くアーティストやデザイナーに必要な俯瞰的視点と柔軟な思考力を身につけるために、近現代の芸術の相対化を試みる。まずは、共創の観点から近現代の芸術について再考する。次に、美術館や町中で芸術の実態調査を目的にフィールドワークを行う。こうした学習と調査に基づいて、芸術の多様性と可能性についてディスカッションする。最後に、各自が自分の研究の価値や意義を再確認し、その内容をプレゼンテーションする。

授業計画

- 1：イントロダクション「共創とな何か？」（谷口）
- 2：芸術の相対化（谷口）
- 3：デザインにおける共創（曾和）
- 4：メディア表現における共創（山本）
- 5：アートにおける共創（谷口）
- 6：フィールドワーク 大阪市立東洋陶磁美術館（集中、谷口）
- 7：フィールドワーク 千日前道具屋筋商店街（集中、谷口）
- 8：フィールドワーク 国立国際美術館（集中、谷口）
- 9：フィールドワーク 日本橋電気街（集中、谷口）
- 10：ディスカッション（谷口）
- 11：各自の研究の意義について（谷口）
- 12：プレゼンテーション（準備）（谷口）
- 13：プレゼンテーション（練習）（谷口）
- 14：プレゼンテーション（講評）（全員）
- 15：まとめ（谷口）

授業時間外学習

授業の前後に、参考図書を読むと授業内容が深く理解できる。授業後に、地域で実施されているアートプロジェクトや芸術祭を見学したり、地域連携や共同制作による芸術活動に参加したりすると授業内容をより深く理解できる。

評価方法

プレゼンテーション50%、レポート20%、授業態度30%の割合で評価する。

プレゼンテーションを発表しなかった場合、またはレポートを提出しなかった場合、または出席が10回に満たない場合はE評価となる。

課題・試験に対するフィードバックの方法

個々のプレゼンテーションに対して講評を行う。

使用テキスト

鶴見俊輔「限界芸術論」（筑摩書房、1993）

参考テキスト・URL

赤瀬川源平「超芸術トマソン」（筑摩書房、1987）

赤瀬川源平他編「路上観察学入門」（筑摩書房、1993）

今和二郎「考現学入門」（筑摩書房、1987）

谷口文保「アートプロジェクトの可能性 芸術創造と公共政策の共創」（九州大学出版会、2019）

熊倉純子監修「アートプロジェクト芸術と共創する社会」（水曜社、2014）

各自準備物

授業中に指示する

実習費

フィールドワークのための交通費

環境アートプログラム

前期・選択・2単位

Environmental Arts Program

担当教員 戸矢崎満雄・さくまはな・かわいひろゆき

到達目標（目的含む）

環境（時代性と地域性）を基にしたアートとプロジェクトについて体験的に理解し、芸術的アプローチによる環境アートの課題と可能性について理解できる。

授業の概要

現代アートは「時代や場所」を踏まえた環境を捉えることが重要なので、国際的な芸術祭やアートプロジェクトの事例を中心に考える。本授業では、日本の伝統文化や社会状況などを起点にしたアートのアプローチを体験や見学も含めて学ぶ。

授業計画

- 1：イントロダクション「環境とアート」
- 2：インスタレーションと茶の文化（集中）
- 3：現代アートと茶会（集中）
- 4：地域文化とアートギャラリー（集中）
- 5：住空間とインスタレーション（集中）
- 6：現代アートと伝統文化（集中）
- 7：芸術祭とアートプロジェクト（集中）
- 8：サイトスペシフィックなアート（集中）
- 9：街おこしとアートの役割（集中）
- 10：アートとワークショップ（集中）
- 11：異文化とワークショップ（集中）
- 12：ワークショップの発表（集中）
- 13：現代アートと盆栽（集中）
- 14：盆栽アートのワークショップ（集中）
- 15：「見立て」と盆栽アート（集中）

評価方法

授業内で書くレポートやワークショップによる制作物を60%、授業への積極的な取り組みを40%で評価する。

使用テキスト

受講者に「ザ・トップ・フロアー」（2006年）と「沙弥島アートプロジェクト」（2016年）を無料で、他に適時資料を配布する。

参考テキスト・URL

神戸芸術工科大学紀要2013「瀬戸内国際芸術祭 沙弥島アートプロジェクト by 神戸芸術工科大学」報告

各自準備物

事前の授業中に指示するか掲示する。

実習費

見学での交通費は各自負担となる。

現代クラフトプログラム

前期・選択必修・2単位

Modern Crafts Program

担当教員 森岡希世子・ばんばまさえ・友定聖雄・田口史樹

到達目標（目的含む）

工芸における伝統とは何か、それは現在の工芸にどのように受け継がれ影響を与えているのかを、体験的に理解する。

授業の概要

工芸の様々な分野において、伝統として伝わる技術や様式を学ぶため、産地での学外実習を行う。さらにその伝統を基礎として、現在行われている革新的な技法や新たな挑戦などを、実際に工芸に携わる方々の聞き取りや、調査学習などを行い検証する。そこから今後の工芸の可能性を考える。

授業計画

- 1：授業・課題説明
- 2：陶磁工芸演習
- 3：陶磁工芸演習
- 4：陶磁工芸演習
- 5：陶磁工芸演習
- 6：陶磁工芸演習
- 7：テキスタイル演習
- 8：テキスタイル演習
- 9：テキスタイル演習
- 10：ガラス工芸演習
- 11：ガラス工芸演習
- 12：ガラス工芸演習
- 13：金属工芸演習
- 14：金属工芸演習
- 15：金属工芸演習

評価方法

4つの演習ごとにレポートを提出し、合計点を最終評価とする。

使用テキスト

適時指示する

各自準備物

適時指示する

実習費

実習での交通費